

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 国語	授業者 江原、竹中
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和7年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか」について、肯定的な回答が国や都の平均を上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも国平均を上回り、都平均を下回った。「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」設問の正答率が低かった。また、記述式の設定問よりも、短答式の設定問の正答率が低い傾向が見られた。

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	全ての項目で9割の生徒が肯定的な回答をした。特に「他の人と相談して、考えを深めるようにしている」「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」の値が高かった。「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」について、最も肯定的な選択肢「そう思う」を選んだ生徒が約6割であり、他の設問の肯定的回答の割合を下回った。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
資料を用いて表現を工夫する力	・表現についての創意工夫を共有したり改善点を伝えあったりする学習活動の機会を増やす。
表現を推敲して文章を整える力	・200字作文など、課題に対する自分の考えをまとめる学習活動の機会を増やし、互いに推敲する時間を設ける。 ・短い言葉で文章の大意を簡潔にまとめる活動を取り入れる。
学習への取り組み方	・学習用端末を活用して、協働の必要な課題解決学習を行う機会を設け、相談の機会を増やす。

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 国語	授業者 橋本 躍弥
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力
- 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等
2. 生徒の現状

(1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
主体的に学習に取り組む態度についての生徒質問紙調査によると、7つの質問全てにおいて、全国平均を上回る肯定的な回答が多く見られた。特に、「質問したりアドバイスをして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と交流しようとしている。」については、全国平均を10%以上上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも国平均を下回った。条件に従い、具体的にまとめた文を記述する問いについて、正答率が全国平均を6.0%上回った。また、記述式や書くことを問う問題の正答率が全国平均よりも上回っている。これらの結果から、問いに対して、答えようとする意欲が高い生徒が多くいることが分かる。 「漢字の書き」の正答が二極化しており、漢字を書くことに対しての意識の差がうかがえる結果となった。

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	質問12項目のうち11項目で9割の生徒が肯定的な回答をしている。その中で、1つ「先生の言葉による指示は明確で分かりやすいか。」の項目について、肯定的な回答が89%であった。「本時の目標」を提示し、分かりやすさを意識しているが、授業全体の流れを明示することで、より学習しやすい授業を目指していく。 「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。」の項目について、肯定的な回答は9割を越えているが、「そう思う」ではなく、「どちらかというと思う。」と答えた生徒が32%いた。このことから、話し合い活動において、他者に積極的に伝えようとしてはいるが、もう少し達成感が上回る可能性を示唆している。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
漢字の学習	月一回実施している漢字テストに加え、目標点に至らなかった生徒に対して、再テストを実施する。漢字に対して諦めずに取り組む契機になってほしい。
話し合い活動	話し合い活動の際に、自ら積極的に自分の考えを他者に伝えていくことに達成感を生徒が感じられるよう、内容に工夫を凝らす。また、必要に応じて、学習用端末を活用して、協働の必要な課題解決学習を行う機会を設け、相談の機会を増やす。

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 国語	授業者 佐藤
--------	-------	--------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## (1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
他者と意見を交流したり、他の人の考えを自分の考えに生かしたりしているか、という質問に対して肯定的な回答が全国や都の平均を上回っている。一方で、本で読んだことを日常に生かす、敬語の役割を考えるとといった項目では、全国、都の平均を8～10%下回る結果となった。	「知識・技能」は全国の平均を上回ったが、市の平均よりも低かった。また、「思考・判断・表現」では、全国、市どちらの平均よりも下回った。特に、「漢字の書き」は正答率が低い結果となった。

## (2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「板書やスライドの分かりやすさ」「指示の明確さ」の項目は9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。 一方で、「chromebookを活用して理解を深める授業を行っているか」という問いに対し、最も肯定的な回答は32%、2番目の肯定的な回答がそれを上回る44%という結果になった。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
基礎知識の定着	単元毎に新出漢字の小テストなどを行い、知識の定着を図る。
思考判断表現（特に「書くこと」）の力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く前に構成メモを作成し、文章の展開の仕方や使う接続詞などを意識しながら書けるようにする。</li> <li>・chromebookで思考の整理ができるよう、ツールを活用していく。</li> <li>・互いに文章の評価をし合うことで、より客観的に自分の文章を読み直す機会がつかれるようにする。</li> </ul>

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 社会	授業者 石原・飯塚
--------	-------	-----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料	分析結果
授業 アンケート	<p>【歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」との質問に対して肯定的に回答した割合は94.3%であったが「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」に対して最も肯定的に回答した割合は53.1%にとどまった。このことから、自分の考えをもつことはできているが、他者の考えに対して深く追究することにおいてはまだ不足がみられる。</li> <li>・「授業の終わりに、学んだことを振り返ったり、整理したりすることが行われている」との質問に対して肯定的に回答した割合は93.4%であったことから、授業の振り返り時間を確保できていると考える。</li> </ul> <p>【公民】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Chromebookを授業で活用して、理解を深める授業が行われている」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合が10割に近いため、引き続き積極的に使用していく。</li> <li>・「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」の回答が、「そう思う」「ややそう思う」の割合が9割を超えていた。学びに向かう等の意識調査では、肯定的な解答が8割に満たないので、この学年は肯定的な回答が高いとわかる。「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」について、「そう思う」の割合が、6割に達していない。</li> </ul>

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<p>【歴史】</p> <p>①協働的な学びの場 ②振り返りの場</p> <p>【公民】</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、自らの学習を調整しようとする側面だけでなく、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力・判断力・表現力」等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面という2つの側面がある。</p> <p>「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」の項目は、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力・判断力・表現力」等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面の評価に繋がる部分である。</p>	<p>【歴史】</p> <p>①学んだ知識から生徒が考え、それを他者に伝えるということは授業内において一定の時間を確保しており、生徒もそのような活動に取り組んでいることがアンケートから理解できる。今後は、自分の考えと他者の考えの違いからより良い考えを提案することのできるような協働的な学びの場を更に充実させていく。</p> <p>②毎時に様々なパターンで振り返りの時間を確保しているが、それに対して生徒も肯定的に捉えていることがアンケートから理解できる。そのため、今後も授業の終盤に毎時の授業を振り返ることのできる時間を確保していく。</p> <p>【公民】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーズブリックに「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」という文言を入れて、生徒に提示する。</li> <li>・意図的に生徒同士で相談する時間を設ける。</li> </ul>

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 社会	授業者 江口
--------	-------	--------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<p>「Chromebookを授業で活用して、理解を深める授業が行われている」「板書やプリント、スライドや動画など、視覚的な工夫がされて分かりやすい」という項目で肯定的な意見が99%見られた。引き続き、Chromebookを活用しながら分かりやすい指導に努める。</p> <p>「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」という項目では、「そう思う」と答えた生徒が6割を切っていた。一方で「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」という項目では、「そう思う」と答えた生徒は8割を超えていたために、伝え合う場面の進め方を考える必要がある。</p>

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
授業中の話し合い活動における活発な議論となるような工夫 →思考判断表現力の育成	適切な課題設定を行い、評価の観点として「積極的な話し合いを通して考えを深める」という項目を作り、生徒がルーブリックを通して明確に意識できるようにする。
授業のまとめ・振り返りの工夫 →主体的に学習に取り組む態度	単元の振り返りだけではなく、単元の中で一貫した題材がさらにある場合にはルーブリックを活用し、主体的に粘り強く取り組めるように、フォームやオクリンクプラスを活用する。

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 社会	授業者 梶塚
--------	-------	--------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業アンケート	<p>・「先生の言葉による指示は明確で分かりやすい」の質問について、75.4%の生徒が「そう思う」と回答していた。1学期中に授業内での言葉遣いや、指示をする際の工夫を意識していた結果と思われる。2学期以降も、生徒に誤解がないような指導をしていく。</p> <p>・「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」の質問について、71.8%の生徒が「そう思う」と回答していた。また、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の質問について、43.4%の生徒が「そう思う」と回答していた。これは、協働的な学びが授業の中で行えていなかったことが原因と思われる。</p> <p>・「Chromebookを授業で活用して、理解を深める授業が行われている」の質問について、84%の生徒が「そう思う」と回答していた。chromebookはスライドとフォームでの学習しか行っていなかったことが原因である。学習に使用できるアプリは多種多様なので、教材研究をしてから2学期以降に使用していく。</p>

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
協働的な学習	あらゆる社会的事象や物事を関連させて、課題を解決する力が社会科では求められるので、考察の根拠である資料集めが大切である。1学期は資料集めが不十分であった。また、1学期での講義形式による授業を生徒主体の授業に改善していく。例えば、ある物事に関する資料を生徒に配布し、1つの発問を設けて生徒に個人で考えさせ、少人数で意見を深めたりした後、全体で共有していく生徒主体の授業を行う。その中で、ミライシードを使用し、より効果的な学びを実現していく。



令和7年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 数学	授業者 緒方・金子
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和7年度全国学力・学習状況調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「授業はよく分かりますか」という質問では71.8%となっている一方で、数学の勉強にたいして得意かどうかや、好きかどうかの質問ではどちらも半数を割っており、数学に対して苦手意識をもっている生徒が一定数いることが分かる。一方で「分からない問題を諦めずに解くか」という質問では72.7%の肯定的な回答があり、粘り強く学習に取り組む態度が育っていることが分かる。 また、「数学が社会で役に立つと思うか」という質問では69.7%が肯定的な回答をしていた。加えて「説明や証明を読んで理解ができるか」という質問では肯定的な回答が75.7%であり、都平均及び全国平均を上回っている。学習したことを生活の場に応用しようとする態度も見えて取れる。	全体の平均点は都平均・全国平均のいずれも下回った。一次関数や割合といった数学用語の理解が十分でないことから、知識・技能の得点は都平均を5.7ポイント、全国平均を1.8ポイント下回っている。一方で思考判断においては全国平均を1.3ポイント上回っている。短答形式の問題は、都平均・全国平均のいずれも下回ったが、記述問題に対しては全国の平均よりも2.4ポイント高い42.0%であった。このことから、記述問題への抵抗感が全国比で少ないことが分かる。 半数以上の問題で無解答率が都平均・全国平均を下回った。この結果は生徒質問紙結果分析における「粘り強く学習に取り組む態度が育っている」という評価を裏付けるものである。

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	ほぼすべての質問に対して肯定的な回答が8割を超えている。「Chromebookを授業で活用して、理解を深める授業が行われているか」に対しては7割に落ち着いた。途中計算や作図など紙とペンで行う機会が多いため、授業内でChromebookを使う機会が減ってしまった。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
ICT機器の活用	Chrombookを授業内で効果的に使える方法を模索する。今以上にChromebookを用いることで数学への抵抗感を抑え、より分かりやすい授業を行う。具体的にはclassroomのリソース機能である演習セットを用いることで問題を写す時間を削減し、解き終わったときに、すぐ正答を確認することができる。そのため、自身が理解できているか、いないかを即座に理解し、自己調整の機会を多く設けることができる。

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 数学	授業者 池田 中澤
--------	-------	-----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## (1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
主体的に取り組む態度を問う質問では、「文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。」と、「問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。」という設問では、全国平均を上回っており、振り返る習慣が身に付いていることが分かる。	<p>テストの平均点では、58.0%と全国平均をわずかに上回っている。</p> <p>観点別において、知識技能に関する問題では、63.7%と全国平均を上回っているが、思考判断表現に関する問題では、39.9%と全国平均を下回っている。</p> <p>領域別では、数と式においては全国平均、関数においては全国平均をわずかに上回り、データの活用では全国平均を16.7%と大幅に上回っているが、図形においてのみ全国平均を3.6%下回っている。</p> <p>上記から思考力を問われる問題と図形領域の問題への課題があると考ええる。</p>

## (2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「他の人と相談して、考えを深めるようにしている」、「他の人と意見が違ったときは、質問をして相手の考えを確かめている」、「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」という質問では、そう思う、まあそう思うと答えた生徒が90%を超えており、他者との話し合い活動には意欲的に取り組んでいる様子が見られた。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
図形領域における知識・技能の向上	2学期には図形領域「平行と合同」「三角形と四角形」において、授業を行う際は、前年度の学習内容の定着を確認する。定着していないようであれば、既習事項の復習を行った上で、授業を実施する。また、知識・技能の定着を図るため、小テストを授業内で実施する。



## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 数学	授業者 小澤・中澤
--------	-------	-----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## (1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
主体的に学習に取り組む態度、質問別回答状況一覽より、1「算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。」の3「新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。」の二つの項目でよくあてはまると回答した生徒の割合が、ともに40%を越えており、全国と比較すると平均4%上回る数値になっている。数学を使って問題を解こうとしていたり、既習事項を使って新しい問題に取り組もうとしていることがわかる。	平均到達スコアの資料を知識・技能、思考・判断・表現の観点別にみると、知識技能では全国平均から-2.3で、日野市平均から-0.8である。思考・判断・表現では、全国平均から-0.6、日野市平均から-0.7である。この数値から、それほど大きな差がないと見て取れる。しかし、知識・技能の全国平均から-2.3の差があるためその差を埋めていきたい。

## (2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「授業によって興味・関心がわき、自分から学習に取り組もうとしている」の項目では8割以上の生徒が肯定的な意見が見られる。授業にも積極的だが、授業で満足して復習がやや不足していると思われる。今後、生徒に負担のないようにワークを活用し、習ったことをその日に学習できるように促していく。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
計算力の定着	授業での問題演習を増やし、手が覚えるくらいやり方をしっかりと身に付けさせる。数学は見ているだけでは覚えられないので、手と頭を使い、テストのためだけではなく実生活と結び付けながら、授業を進めていく。

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 理科	授業者 加藤・角田・佐藤
--------	-------	--------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

- ◆授業の資料等を活用した分析  
(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料	分析結果
全国学力・ 学習状況調査	意識調査 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の合計
	(60)理科の勉強は得意ですか 本校60.7 都46.8 国50.7
	(61)理科の勉強は好きですか 本校73.9 都61.0 国63.8
	(66)学習した考え方を活用できていますか 本校58.1 都50.3 国50.7
	(68)観察や実験をよく行っていますか 本校94.5 都87.2 国85.8
	(69)予想をもとに実験の計画を立てていますか 本校86.3 都70.4 国70.2
	(70) 観察や実験の中で自分や友達の学びが深まったか
	調べたいことが見つかったか、振り返っているか 本校84.2 都69.3 国68.4
	平均正答数 本校 5.1 / 10 都 5.2 / 10 国 5.2 / 10
	IRTバンド分布比較
	R1 R2 R3 R4 R5
本校	3.4 28.2 45.3 20.5 2.6
都	3.6 25.7 43.8 21.4 5.5
国	4.2 27.3 42.0 20.3 6.2
	探究活動を学期に1回以上実施しているため、意識調査(69)(70)の割合が高い。 (60)(61)の項目が高いのは、探究活動に加えて単元テストで難問奇問を出題しなくなっ たことも影響していると考えられる。
	平均正答数は都、国をわずかに下回っている。 IRTバンドのR1の分布がやや少ない。(成績上位者が少ない) R5の分布が少ないのは再テストの効果と考えられる。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
思考力を高める	<p>これまでどおり、基礎・基本の定着を目指しながら、科学的な思考力を育てる活動を取り入れる。</p> <p>(1)科学的な根拠に基づいて自分の言葉で説明する活動。 →言語化する活動を通して深い理解を促す。 考えを整理し表現する力を育てる。</p> <p>(2)学習した規則性をもとに予測する活動。 →探究活動等で予想・仮説を立てる活動を充実させる。</p>

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 理科	授業者 林 西
--------	-------	---------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状

(1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「今日の実験や観察の仮説を自分から立ててから実験や観察に取り組むようにしている」や「実験や観察の結果を踏まえて、主体的に仮説の検証をしている」の項目では、肯定的な解答が全国平均を上回っている。また、「実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている」では全国平均を下回る結果となった。	テストの平均点は全国平均を1.4%上回る結果となった。観点別の正答率は知識・技能と思考・判断・表現ともに全国平均を上回る結果となったが、「状態変化」など単元によっては正答率が全国平均を大幅に下回るものもある。単元によって正答率が左右されることが課題である。

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「授業によって興味・関心がわき、自分から学習に取り組もうとしている」「自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」など肯定的な解答が8割を超えていたが、「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」の肯定的解答が他の質問と比べてやや低くなっていた。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
実験レポート	レポートを作成する機会を増やし、レポート内容へのフィードバックを行う。実験によってレポートを作成しやすくICTと紙をうまく活用しながら行う。
質問教室の実施	放課後に質問教室を行うことで、気軽に分からない部分を質問できる環境を作る。単元によって正答率が左右されないように、苦手な単元をなくしていくことを目指す。

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 理科	授業者 角田・上條
--------	-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等
2. 生徒の現状

(1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
<p>主体的に取り組む態度を問う質問では、肯定群の回答割合が、全ての項目において全国平均より下回っていた。特に、「今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている」という項目では、全国平均と比較して肯定的な回答が8.7%低かった。一方、市内平均と比較したとき、「学習成果や今後の課題を振り返って明らかにしている」「実験や観察・調査の結果をレポートに書いている」「今日の実験や観察の仮説を立ててから実験や観察に取り組むようにしている」という項目では、肯定的な回答の割合が上回っていた。</p> <p>このことから、仮説を立てて実験したり、実験したことをまとめる活動はできるが、自分で課題を見つけたり、問いを立てたりする経験が少ないことが分かった。</p>	<p>教科総合の達成率は、60.1%であり、全国平均の61.6%をわずかに下回っている。観点別の達成率は、知識・技能が45.5%で、全国平均から6.8%と大きく下回っており、思考・判断・表現が55.9%で全国平均から3.7%下回っていた。領域別では、物質・エネルギー領域が52.6%で、全国平均から4.3%下回っていた。生命・地球領域では、54.0%で、全国平均から7.0%と大幅に下回っていた。</p> <p>このことから、全体的に知識・技能などの基礎があまり身についておらず、特に生命・地球領域の既習事項が定着できていないことが分かった。</p>

(2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
学習への取り組み方について/授業改善アンケート	<p>ほとんどの項目において、肯定的な回答が80%を上回っていた。特に、「他の人と相談して、考えを深めるようにしている」という質問では、「そう思う」の回答率が最も高い54.8%であった。一方で、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」「他の人と意見が違ったときは、質問をして相手の考えを確かめている」という質問では、「そう思う」と回答した人がそれぞれ34.8%、40.6%と低かった。</p> <p>このことから、意見交換で相談した後に考えを改めたり深めることはできるが、まず自分の意見を持って他者に伝えたり、相手の意見が違ったときに、さらに質問して相手の考えを引き出したり深掘りすることは苦手であることが分かった。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
・自分で課題を見つけて問いを設定する探究学習	・生徒が課題を見つけ、自ら問いを設定しやすいよう、探究的な学習を行う際、自由進度学習を行う。
・より意見を深め合えるグループワーク	・グループワークでただ意見の伝え合いをするのではなく、自分の意見の理由や根拠まで伝えたり、相手と意見が異なる場合は、なぜそのように考えたのか理由や根拠を聞くことで、より意見を引き出したり、深め合うことができるグループワークを行う。

令和7年度 授業改善推進プラン

学年 3 年	教科 英語	授業者 並木
--------	-------	--------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状  
◆授業の資料等を活用した分析  
(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	<p>・「Chromebookを授業で活用して、理解を深める授業が行われている」について、「そう思う」「ややそう思う」と答えている生徒の割合は9割を超えている。このことが授業の分かりやすさにつながっていると考えられる。</p> <p>・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の回答が、「そう思う」「ややそう思う」の割合が9割を超えていた。英検IBAの結果からも自己表現の点数が高いことはこの割合の高さが高いことが原因であると考えられる。</p> <p>「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合は、8割に達しており、授業内で自己調整力の高さが養われていると分析できる。</p>

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
リーディング・ライティング (まとまりのある英文を正確に読み、既習の表現を正しく活用して英文を書く)の力向上	<p>・2時間に1回、授業内でまとまりのある英文を時間を計って正確に読む練習を設定する。英文を読むときのコツを友達と話し合いをしながら自ら気付かせる。</p> <p>・単元の最後に自分の考え指定された語数で書く活動を設定し、友達の英文を見てコメントし合う。</p>



## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 2 年	教科 英語	授業者 木内直美、高坂恵理
--------	-------	---------------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## (1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「英語の学習はどのくらい得意ですか」という質問に48.2%の生徒が否定的な回答をしている。「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」という質問に71.1%の生徒が肯定的な回答をしているが、他の設問と比べて少なくなっている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに平均正答率は全国平均をわずかに上回っていたが、「知識・技能」は全国平均の66.2%に対して66.3%であり、比較的低い。また、「書くこと」の領域の正答率が全国平均の46.1%に対して43.9%となっており、大きく下回っている。中でも日常的な場面に応じた英文記述に関しては全国平均の29.3%に対して22.9%となっている。

## (2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「板書やプリント、スライドや動画など、視覚的な工夫がされて分かりやすい」という質問に13.5%の生徒が否定的な回答をしており、比較的高かった。 「自分の考えをまとめたり、伝えあったりする授業が行われている」という質問に90%の生徒が肯定的に回答しており、思考・判断・表現の平均正答率が高かった理由の1つとして考えられる。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
・書くことの領域の力の育成	・学期末に学習した内容を活用して英文を書く時間を設け、書くことの領域の力の育成を図る。英文を書かせる際にはモデル文を例示し、英文を書くことが苦手な生徒も取り組みやすい環境を作る。書かせた内容を活用してスピーチをさせたり、ICTを活用して共有することで、自分の考えを共有したり、他の人の意見に触れる時間をつくる。
・視覚的に分かりやすい資料の導入	・言語材料の導入時にスライドを活用することで、視覚的に本時の学習内容を分かりやすくする。

## 令和7年度 授業改善推進プラン

学年 1 年	教科 英語	授業者 小池 紗貴
--------	-------	-----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## (1) 「令和7年度日野市学力調査」の分析

生徒質問紙結果分析	観点別結果分析
「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している」に対し、肯定的な回答が51.0%で、他の項目と比べて低い。また、A層とD層の差が29.4%と大きく開いており、テストのやり直しが学力の伸びと大きく関わっていることを示していると考えられる。	「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに全国平均を上回っていたが、「思考・判断・表現」の観点が85.3%と、比較的低い。

## (2) その他の資料等を活用した分析（授業改善アンケート学習への取り組み方について）

活用した資料等	分析結果
授業改善アンケート	「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」に対し、否定的に回答している人は15.4%で、比較的高かった。3つの観点の中でも、特に「思考・判断・表現」の向上のためには、他者との意見交換の場を設ける必要性がある。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト後に自分の課題を明確に把握し、その課題解決のために何をすべきか考え、行動に移すことができるようにする。</li> <li>→主体的に学習に取り組む態度の育成</li> <li>・他者と異なる考えをもったときに、相手の考えについても積極的に質問をし、自分の考えを深められるようにする。</li> <li>→思考・判断・表現力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとの振り返りシートの記入を継続して実施する。テスト返却の際には振り返るときのポイント(できた・できなかった、という結果だけでなく、なぜできた・できなかったのか)についても考え、言語化できるよう助言する。</li> <li>・日頃から演習時に他者と意見交換をする時間を設ける。その際、自分の意見を述べるだけでなく、なぜそう考えるのか、と理由も含めて伝えるよう指導、助言していく。</li> </ul>

## 令和7年度 授業改善推進プラン

教科 音楽	授業者 萩原絵理子・鈴木夕華
-------	-------------------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	単元テスト 歌唱テスト 授業観察	・音楽が好きな生徒が多く、演奏をすることも好きで小学校の時に身に付けた発声で上手に歌う生徒も多い。 ・特別教室のため、環境の変化に弱く集中力が続かない。
2 年	授業中の取り組み 単元テスト 実技テスト	単元テストは8割以上の点数を取れている生徒が多く、知識が定着していることが分かる。一方で歌唱テストでは音程、声量、表現のうち声量が不十分な生徒が多い。
3 年	単元テスト 歌唱テスト 授業観察	・何事にも真面目に取り組むが、点数・評価を気にする生徒が多く、なかなか自由な発想や表現に至らない。 ・歌唱の分野では、女子の技術、表現力が弱い。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	・豊かな表現をめざす。 ・授業規律の再確認	・きれいな声・正しい音程がどのようなものか模範演奏を聴いたり、小グループで歌って評価し合ったりするなど、実感できる授業づくりを行う。また、授業開始時に本時の目的を伝え、落ち着いた雰囲気を始められるようにする。
2 年	技能の向上	授業の導入で発声練習を行い、改めて正しい身体の使い方や発声について指導する。また、パート練習の中で個別に技術指導を行う。
3 年	パートリーダーを中心に主体的に合唱を仕上げられるようにする。	・きれいな発声法を身に付けるために、必ず発声練習を行う。どんな曲に仕上げたいか意見交換が出来るような授業を行う。口を開けて歌うことが恥ずかしいくないような雰囲気づくりをする。

## 令和7年度 授業改善推進プラン

教科 美術	授業者 藤枝 美波
-------	-----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	授業中の取組み 振り返りシート 作品	ゴッホの模写を行い、絵具の使い方や混色の応用を生かした作品を制作した。 ゴッホの質感を出すために、絵具の濃度を変え、筆の使い方を変えることができていた。 振り返りの目的が理解できずに書いている生徒が多く、感想になってしまっている。
2 年	授業中の取組み 振り返りシート	作品制作は絵具の塗りムラやレタリングなどの実技のポイントを絞って行ったところ、集中して制作を行うことができていたので、1学期末には、ほとんどの生徒が色塗りを行うことができた。しかし、絵のクオリティが上がらなかったため、改善が必要であると感じた。
3 年	振り返りシート 作品	修学旅行のしおりの表紙として制作物を利用することで表紙に選ばれようと作品に対して熱心に取り組んでいる生徒が多かった。 普段使わない技法を使ったので、技法が理解しきれない生徒がいて、改善が必要であると感じた。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	振り返りの観点の見直し	本時の授業の目標を適格に伝え、ループリックで振り返りの内容の観点を提示しておく。
2 年	導入の見直し	作品のクオリティを上げるため、導入時にインターネットで調べ学習を行い、具体的なイメージを明確にする。
3 年	技法の教え方を見直し	技法の使い方が具体的にイメージできるように、実際に使われているものの画像を活用するとともに、試作を行うようにする。

# 令和7年度 授業改善推進プラン

教科 保体	授業者 小田島、松崎、桶田、阿部、川幡
-------	---------------------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能      思考力、判断力、表現力等      学びに向かう力、人間性等

2. 生徒の現状  
◆授業の資料等を活用した分析  
(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	単元テスト 実技テスト レポート、学習カード 授業観察	テスト種目や実施回数が少なかったが、多くの生徒は、各テストやレポートへ前向きに取り組んでいる姿勢が見受けられた。しかし、一部の生徒はその重要性の認識が薄く、十分な能力の発揮に至らなかった。
2 年	単元テスト 実技テスト レポート、学習カード 授業観察	前年度と比べ、全体的にレポートや課題などの取組みの意識が上がっているように思えるが、一方で、来ていない生徒との差が大きい現状もある。授業内で振り返りまで実施できると良いと感じる。
3 年	単元テスト 実技テスト レポート、学習カード 授業観察	単元テストや実技テストの難易度調整が難しい。簡単すぎたり難しすぎたりせず、生徒が達成感や成就感を得られるよう模索する。また、授業を担当する教員ごとにやる内容や評価規準に差ができないよう、打ち合わせをしっかりと行う必要がある。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	①主体的に学ぶ態度 ②知識・技能	①簡潔明瞭かつ丁寧な説明の常用 ②ルーブリックによる評価基準の明示化 ②視覚的に自己の動きを客観的にとられる工夫[動画撮影等]
2 年	①主体的に学ぶ態度 ②思考力・判断力・表現力の醸成	①自己調整力をテーマに学習の調整を計れるしかけをしていく。 ②思考力を問う課題やその課題をグループワーク等で共有する授業を展開する。
3 年	①難易度調整 ②詳細な打ち合わせ	①学習指導要領を全て網羅するのではなく、生徒の実態に応じて難易度を下げたり発展技を取り入れたり、課題の設定を柔軟に行う。 ②毎週、体育科で授業の打ち合わせで行う。



## 令和7年度 授業改善推進プラン

教科 技術	授業者 鳥越 朗
-------	----------

## 1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等

## 2. 生徒の現状

## ◆授業の資料等を活用した分析

(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	単元テスト 授業改善アンケート 振り返り	材料と加工の技術の課題におおむね前向きに取り組んでいるようであったが、10%程の生徒が課題の取組みに対して難しさを感じている。
2 年	単元テスト 授業改善アンケート 振り返り	生物育成の技術と情報の技術について、振り返り等を通して主体的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、自分で考えたプログラムなどを表現することを苦手樹感じている生徒が多い。
3 年	単元テスト 授業改善アンケート 振り返り	エネルギー変換の技術について、授業改善アンケートから主体的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、エネルギー変換の活用に関する部分は、どのように表現したり考えたらいいかについて難しさを感じている生徒が多い。

## 3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	・個々の習熟度の応じた課題の設定。 ・作業計画の作成	設計の場面では個々の習熟度に応じた課題を設定することで、自分で難易度を選択できるようにする。また作業計画を作成することで全体を見通し、さらに、その日に作業する内容を自分で調整できるようにする。
2 年	・ルーブリックの活用 ・成果物の共有	ルーブリックを活用して、プログラムをどのように改善できたかの評価を明確にする。また、成果物を共有することで様々な表現方法を参考にできるようにする。
3 年	・ルーブリックの活用 ・成果物の共有	ルーブリックを活用して、レポートをどのような観点で評価するのかを明確にする。また成果物を共有することで様々な表現方法を参考にできるようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン

教科 家庭	授業者 黒川 理加
-------	-----------

1. 教科の目標：育成したい3つの資質・能力  
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等
2. 生徒の現状

◆授業の資料等を活用した分析  
(定期考査、振り返りシート、授業中の取組、実技、パフォーマンス課題、  
授業改善アンケート 学習への取り組み方について 独自のアンケート等)

学 年	活用した資料等	分析結果
1 年	単元テスト 振り返りシート 授業改善アンケート	・自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている生徒、自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている生徒の割合が低い。
2 年	単元テスト 振り返りシート 実技 授業改善アンケート	・振り返りや課題の期限内提出率が低い。 ・粘り強く主体的に取り組もうとする生徒は多いものの、思考力に結び付いていない生徒が多い。 ・実技面において、前回の内容を思い出すのに時間がかかり、本日の目標に到達しない生徒も多く見られた。
3 年	単元テスト 振り返りシート 授業改善アンケート	・主体的に取り組む生徒は多いが、思考力に結び付いていない生徒が多い。 ・「先生の言葉による指示が明確でわかりやすい。」と回答した生徒の割合が低い。

3. 授業改善策（上記2（1）（2）を踏まえて）

学 年	改善の観点	具体的な改善策
1 年	・個々の能力に応じたきめ細やかな対応 ・成果物の共有	・オクリンクプラスなどを利用し、自分の意見を表現したり、人の意見を受け、再考したりする課題を設けてく。
2 年	・ルーブリックの活用 ・提出の確認 ・時間内での課題取組みの効率化	・あらかじめルーブリックを提示し、評価の方向性を明確にする。・授業内に提出する時間を設け、提出できているかその場で確認する。 ・次回の内容を告知し、予習・復習を促す。
3 年	・振り返りの観点の見直し、ルーブリックの活用 ・課題提示方法の見直し	・ルーブリックの活用 ・簡潔で明瞭な説明を心がけるとともに、文章での課題提示を同時に行う。